

オペラの素晴らしさを間近で聴けた贅沢な時間



10月1日(月)の夕方、午後5時から緩和センターの談話室で、午後6時30分から外来ホールで、ソプラノ歌手田村麻子さんの“ミニコンサート”が開かれました。伴奏はフランスで研鑽を積んだピアニストの江澤隆行さん。

田村さんはニューヨーク在住で、オペラ「マダムバタフライ」や「椿姫」に出演し、海外でも高い評価を受けている声楽家。プロの歌声を目の前で聴かせていただき、その美しい響きに患者さんたちも感激の面持ち。たまたま声楽を習っていたという患者さんは、「私も早く治って、田村さんが歌った同じ曲をまた歌いたい」と回復への意欲につながるコメントを寄せていただきました。

演奏曲目はヘンデル作曲「オン・マブラ・マイフ」、シューベルトの「アヴェ・マリア」、ガーシュインの「サマー・タイム」、「七つの子」「宵待ち草」。プッチーニのオペラ“ラ・ボエーム”より「私が街を歩くとき」には舞台のような演技や、アリア「私の愛しいお父さん」では日本語のセリフを歌の前に語って、オペラをより身近に感じさせてくれる工夫もしていただきました。

伴奏の江澤さんは、電子ピアノにもかかわらず素敵な演奏と、歌の合間にはオペラのミニ知識を解説。アンコールの「赤とんぼ」に拍手が鳴りやみませんでした。

